

# <iRCT を簡単につかってみましょう>

2014/10/23 現在

タップ=指で目的の部分たたく アイコン=画面上の小さな絵

## OTS-4 (標準モード) で使用する

OTS; オクターブ・チューニング・スタイル  
(伸長率)  
1~9まであり、4が標準となっております。

1. 電源スイッチを入れ、iRCTのアイコン(CyberTuner)をタップします。
2. Chameleon (カメレオン) の画面が開きます。右上のボックスをタップし **OTS4** を選択します。  
※違う画面が表示される場合は、左下の Chameleon というボックスを選択します。
3. まずは今から調律するピアノ独自の調律曲線を作るために、サンプル音を録ります。録音ボタン(左下の赤い●)をタップしてください。
4. 指のマークが A4 (49A) を指しますので、A4 (49A) の音をメゾフォルテで聞かせます。この時、1本の弦のみが鳴るようにミュートしておきます。音叉のマークがクルクルと回転するまで音を出し続けて聞かせてください。これを 3 回繰り返します。●を押した後に時間が空くと、「聞き取れません」という内容のメッセージが出ます。このときは **Retry** を選択してください。
5. 次に指のマークが A3 (37A) を指しますので、5 の手順と同じようにして 3 回聞かせます。これを指示に従って、A5 まで繰り返して行います。
6. サンプル音がよく聞き取れなかった場合、Hz もしくはセントが赤字で表示されます。その音の鍵盤のアイコンをタップし、もう一度 3 回聞かせてください。
7. A5 までとりおわったら、右下のカメレオンマークの計算 (Calculate) ボタン  をタップします。
8. サイバーイヤーの画面が開きます (図1)。この画面で実際に調律をしていきます。  
※グラフの画面が表示された場合は右下の **Tune** を選択します。  
※機械を横にしますと、鍵盤が表示される横画面として使用できます。
9. 右上のピッチが表示されている枠 **A440** ▼ をタップし、目的のピッチを選択します。
10. スピナーの真下の枠に表示されている音を聞かせます。 **A 3** と表示されていれば、37A を聞かせます。
11. スピナーの回転が止まるように調律していきます。完全に一致すると、スピナーの色が円いっぱいになります。
12. A3→A#3 というように半音ずつ進むと、サイバーイヤーも自動的に切り替わります。どんどん進んでいきましょう。手動で音を切り替えるためには、図 2 のように指でスライドさせます。



図 1

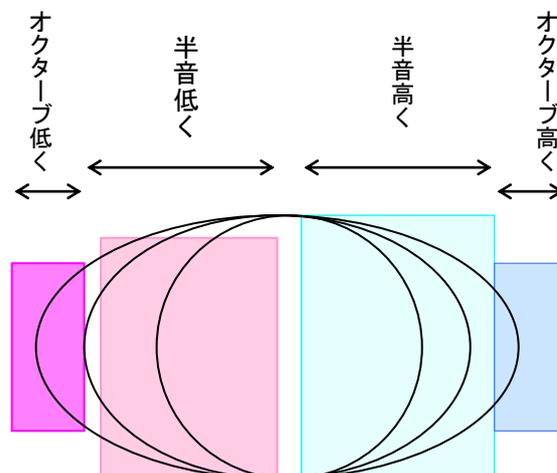


図2 サイバーイヤーをタップして移動する音の範囲

## EASY モードで試してみる

→クイックマニュアル p.4~

1. 電源スイッチを入れます。
2. 画面上の iRCT のアイコン (CyberTuner) をタップします。
3. Chameleon (カメレオン) の画面が開きます。右上のボックスをタップし **Easy** を選択します。
4. サンプル音を聞かせます。録音ボタン (左下の赤い●) をタップしてください。
5. 指のマークが A4 を指しますので、A4 (49A) の音をメゾフォルテ <mf> で聞かせます。この時、1 本の弦のみが鳴るようにミュートしておきます。音叉のマークがクルクルと回転するまで聞かせてください。これを 3 回繰り返します。サンプル音がよく聞き取れなかった場合、「Poor」の表示が出ますので、その音の鍵盤のアイコンをタップし、もう一度 3 回聞かせてください。「Good」、「Fair」が出れば OK です。
6. 次に指のマークが A3 (37A) を指しますので、5. の手順と同じようにして 3 回聞かせます。これを指示に従って、A5 まで繰り返して行います。
7. ピッチが 1Hz 以上ずれている場合は、ピッチ上げ (Pitch Raise) モードでまずピッチ上げをしましょう。下の「Pitch Raise モードの使い方」をご覧ください！
8. A5 までとりおわったら、カメレオンマークの計算 (Calculate) ボタンをタップします。
9. サイバーイヤーの画面が開きます (図1)。この画面で実際に調律をしていきます。
10. 右上のピッチ窓をタップし、目的のピッチに合わせます。
11. スピナーの真下に表示されている音を聞かせます。A3 と表示されていれば、37A を聞かせます。スピナーの回転が止まるように調律していきます。完全に一致すると、スピナーの色がいっぱいになります。
12. A3→A#3 というように進むと、サイバーイヤーも自動的に切り替わります。どんどん進んでいきましょう。



図 1

※ イージーモードを選択すると、RCTの設定がおまかせモードになります。  
OTSで使用する場合は、おまかせモードのままになってしまいますので、Advanceを  
タップし、設定を行って下さい。(別紙B5 RCT画面の設定 参照)

※ easy モードでは保存ができません。データ保存をお考えの方は、OTS で使い方に慣れてください。

## ピッチ上げをする

→クイックマニュアル p.8~

30¢ 以上下がっている場合など、大幅なピッチ変更をするときには、ピッチ上げモードを使用します。

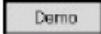
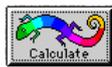
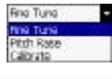
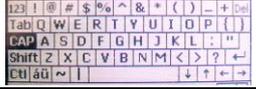
1. 電源スイッチを入れます。
2. 画面上の iRCT のアイコン (CyberTuner) をタップします。
3. カメレオンの画面が開きます。画面下の **Recorded piano** をタップします。
4. 5 種類の大きさのピアノが表示されます。一番近い大きさのピアノを選択します。(例: ヤマハ U1、U3 のピアノでしたら、3 番目の Kawai UST 7 studio が最適かと思います。)
5. カメレオンの画面に戻りますので、右下のカメレオンマークの計算 (Calculate) ボタンをタップします。 
6. 設定が A440 以外になっていると、ここでメッセージが出てきますが、**OK** をタップします。
7. サイバーイヤーの画面が開きます。画面下部の **Mode: Fine Tune ▼** と書かれた枠をタップし、Pitch Raise を選びます。
8. 細かい設定をする画面が開かれます。一番上の行、Lowest plain-wire note には、一番低い真線の音を入力します。▲、▼をタップして、変更します。下の Overpull では、狂いの大きさに応じて数値を設定します。通常は Bass Cap 10¢、Treble Cap 24¢、Adjust Overpull +0% が基本設定となります。
9. 右下の **Start New** をタップします。
10. サイバーイヤーの画面に戻ります。ピッチを表示している枠 **A440 ▼** を、目的のピッチに合わせ、スピナーの回転が止まるように、A0(最低音)からどんどんピッチ上げをしていきます。
11. ピッチ上げが終了したら、カメレオンの画面に戻り、●をタップしてサンプルをとり、通常の手順で調律を始めてください。

## スマートチューン Smart Tune で使用する

0.5 から 10¢ ぐらいわずかにずれている場合など、この Smart Tune モードを使用すると、非常に正確な極小ピッチ修正を行い、調律が最終的なターゲットにより近づくのに役立ちます。

1. 電源スイッチを入れます。
2. 画面上の iRCT のアイコン (CyberTuner) をタップします。カメレオンの画面が開きます。
3. サンプルをとります。
4. A5 までとりおわったら、右下のカメレオンマークの計算 (Calculate) ボタン  をタップします。
5. サイバーイヤーの画面が開きます。画面下部の  と書かれた枠をタップし、Smart Tune を選びます。
6. 細かい設定をする画面が開かれます。一番上の行、Second Treble Strut Note には、次高音最後の音 (Up の場合は通常 C8) を入力します。First Treble Strut Note には中音部の最高音、Lowest trichord Note には 3 本弦の最低音、Lowest tenor Note には中音部の最低音を入力します。  
Tenor bichord には Lowest tenor から Lowest trichord までの弦数が自動的に表示されます。
7. 左下の  をタップします。
8. サイバーイヤーの画面に戻ります。ピッチを表示している枠  を、目的のピッチに合わせ、スピナーの回転が止まるように、調律していきます。

## 主な用語の説明

画面表記	読み方	用語解説	画像
	タップする	指などで目的の部分を軽くたたく	
	アイコン	小さな絵	
Chameleon 3	カメレオン 3	5 つまたは 6 つのサンプル音を計測・記録する画面です。音叉が 5 つ並んでいます。	
Cyber Ear	サイバーイヤー	回転する「スピナー」を使って、それぞれの弦を正しいピッチに調律する画面です。	
Easy	簡易モード	ほとんどのピアノに対して最適な設定を自動的に選択するので、初めて使う方や調律初心者に最適です。	
OTS	オクターブチューニングシステム	OTS1～OTS9まで、ピアノの大きさによって伸張率などを選べる、上級者向けの機能です。	
Demo	デモ	5 種類の様々なピアノのサンプルが使用できます。	
Advanced	上級モード	一步進んだ設定をする画面です。	
Custom EQ	カスタムイコライザー	自分好みの調律をRCTIに設定する機能です。	
Calculate	計算ボタン	5～6 音のサンプルをとった後に、このボタンを押して計算をします。カメレオンの絵のボタンです。	
	スピナーボタン	スピナーの回転速度や色などを設定するとき、このボタンをタップします。	
	表示切替ボタン	ランドスケープモード(横向きの画面)に切り替えます。	
Fine Tune	精密調律	通常の調律で使用するモードです。サイバーイヤーの画面を開いたときに Fine Tune モードが出てくるように初期設定されています。	
Pitch Raise	ピッチ上げ	ピッチ上げ(下げ)を行うときに使用するモードです。	
	キーボード	画面上に出てくる、文字を入力するための格子状の部分。フォルダや調律記録に名前をつけるときに使います。	
	入力	キーボードなどを使用して、文字などを書き込むこと。	
	フォルダ (調律フォルダ)	C3、U1 などの名前をつけて、その中に調律データをしまっていきます。ひとつのフォルダには同じ種類の調律データを入れていくと、呼び出すときに便利です。	

※画像は実際の画面と異なることがあります。